

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価 計画

達成度(評価)

- A: 十分達成できている
- B: おおむね達成できている
- C: やや不十分である
- D: 不十分である

学校名	佐賀市立東与賀小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科の研究を中心に言葉を大事にする学習を進め、その成果として国語の学習が楽しいと回答する児童が増えた。しかしCRTの結果を見ても底上げがどの学年もできたとはいえない。「学ぶことの楽しさ」を感じさせるのは大事なことであるが、「楽しさ」を授業の中でどのように具現化し、共通認識をもって授業づくりをしていく必要がある。 ・自分が認められる存在であるように、「ほめる」活動を来年度も「ほかほかカード」の取組などを中心に継続していく必要がある。また、「たてわり遊び」「よかつ子オリンピック」などの他者との交流を通して自己肯定感を高めることを中心に学校全体で取り組みの継続を図る。 ・特別支援教育の充実が本校の課題である。チーム学校として児童個人の把握に努め、保護者、S WやS C、外部機関との連携を今後も円滑な運用と児童の成長を促していきたい。また、通常学級にも困り感を持っている児童が数多く存在するの
------------------	---

2 学校教育目標	<p>ふるさとを愛し、自ら学び、ともに生きていく東よかつ子の育成</p> <p>ー「元気」と「笑顔」あふれる学校ー</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○子どものWell-beingの実現 ①校内研究と特別支援教育の充実(生きる力を身に付ける) ②生き生きと学べる環境づくり(心身の健康・安心して学べる環境) ○教師のWell-beingの実現 ③校内研究と特別支援教育の充実(指導力の向上、子ども理解) ④働き方改革の推進(チーム学校、ワーク・ライフバランス)
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

重点取組	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
				進捗度(評価)	進捗状況と見直し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○国語科を中心とした「主体的で対話的な学び」の実践	○学校評価アンケートを実施し、「あなたは学校の勉強がわかりますか」「勉強したことが分かったりできるように頑張っていますか」の項目が児童・教員ともに80%以上	・付る力を明確化した学習課題を示し、学び合いの時間を設け、自習した学びを実施する。 ・校内研修で、国語科の学習の進め方を共有する。 ・児童の学びの記録や自己学習を提示し、児童同士が学びを見合うことができるようにする。							学力向上部(副)学力向上コーディネーター
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童の道徳的価値の自覚を深めるために、毎週の「道徳科」の充実を図る。 ○Q-Uリストにおける要支援者を10%以下に減少させる。 ○毎月「ほかほかカード」を書く時間を設け、友達とよさや自分の強さを褒めあうことができるようにする。 ○人権奉仕を実施し、生命尊重や他者への思いやりなど、人権意識を高める。	○児童の道徳的価値の自覚を深めるために、毎週の「道徳科」の充実を図る。 ○Q-Uリストを年2回実施して分析を行い、学級経営の改善を図る。 ・児童の役割・仕事をつくり、「ほかほかカード」を活用することで、児童の自己肯定感を高める。 ・各学年で取り組む人権教室や全校でのほかほかカードの活用を通して、お互いの思いや気持ちを尊重しあえるようにする。	・各教科等との関連を意識した「道徳科」の授業を実施する。 ・Q-Uリストを年2回実施して分析を行い、学級経営の改善を図る。 ・児童の役割・仕事をつくり、「ほかほかカード」を活用することで、児童の自己肯定感を高める。 ・各学年で取り組む人権教室や全校でのほかほかカードの活用を通して、お互いの思いや気持ちを尊重しあえるようにする。						道徳教育推進教員 人権・同和教育担当(副)各学年主任
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○児童の実態把握のため、全校児童・保護者対象のアンケートを実施し、いじめ問題等の早期発見を行う。 ○アンケートを活用して、事前にいじめ防止ができたと回答する職員を90%。	・いじめに関するアンケートを児童・保護者を対象に年2回実施し、実態を把握する。(6月・11月) ・「〇月のこころ」を教職員間で共有し、模範の教師で児童を支援する。 ・小規模校の児童の様子や事情などをよく見ることができたり、積極的に声を掛けたりして、児童の悩みを早期に気づけるようにする。							生徒指導担当(副)各学年主任
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●◎「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上 ●各学年の実態に応じてキャリア教育を充実させる。	◎「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上 ●各学年の実態に応じてキャリア教育を充実させる。	・友達や先生とほかほかカードに書き添えて交流することで、自分自身の長所に気づき、自尊心を高める。 ・各種体験活動では、児童に活動の楽しさと学びの振り返りを行う機会を設けたり、将来の夢や目標に近づけるための学年や学期的にキャリアパスポートを活用したりする。						
●健康・体づくり	○縦割り活動を充実させ、活動が楽しいと感じる児童を80%以上。	○縦割り活動を充実させ、活動が楽しいと感じる児童を80%以上。	・月に2回程度たてわり遊びを実施し、異学年交流を行う。 ・学校行事を通してたてわり活動を行い、交流を深める。							自主自立部
	次の中から一つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④「安全に関する資質・能力の育成」 ⑤「健康を考えて行動できる能力の育」 ○児童生徒が交通安全に意識して登下校をすることができる。	●「健康に良い食事をしている」と答えた児童生徒90%以上 ●「健康に気を付けて生活している」と答えた児童90%以上	●「健康に良い食事をしている」と答えた児童生徒90%以上 ●「健康に気を付けて生活している」と答えた児童90%以上	・結核指導では、普部な食材の摂取を促してできるだけ完成できるようにする。 ・週に1回の健康検査や、手洗いが早い起床や起床後の挨拶など、生活習慣を促す。 ・健康だよりや検査物で、望ましい生活習慣についての啓発をする。また、学級担任と保健師の協働で児童に直接健康指導を行うことで、自身の体への関心を高める。						
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・交通安全教室や日々の指導等で交通安全への意識を高める。また、見守り下校を通して、児童の交通安全を徹底する機会を確保する。 ・毎年4月14日の「あさひの日の日」には、朝の放送で交通安全について注意喚起を行う。							健康安全部
	○学校業務改善の推進	○管理職だけでなく学校全体で業務の改善を図るための話し合いを月1回行い、スリム化を実践する。	・運送の開始や定時退校の徹底を行うことで、時間外在校時間を削減する。 ・食費資料や授業教材資料等について、他の教職員と情報共有し、お互いに活用することで、時間を有意義に使うようにする。 ・年次休暇を取りやすい環境や雰囲気を作っていく。							管理職
●特別支援教育の充実	○個々に応じた支援体制の確立	○個々の児童に応じた支援を行うために、全職員の共通理解を図る情報交換の場を月に1回設ける。 ○配慮を要する児童について、個別の教育支援計画・指導計画を作成し、有効に活用する。	・月1回の生徒指導協議会の後半の時間を活用し、児童の情報を共有し、必要に応じて、支援体制を築く。 ・学校生活支援計画を毎月、各担任、コーディネーター、管理職の間で共有することで、情報共有を行う。 ・教育支援計画については、年次制に作成し、学期末に評価し、翌年度に活用し、必要に応じて、改善を図る。 ・児童の学びの記録や自己学習を提示し、児童同士が学びを見合うことができるようにする。							特別支援コーディネーター

重点取組	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
				進捗度(評価)	進捗状況と見直し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○教職員の資質向上	○校内研を中心とした教職員の資質向上	○教職員へ向けての意識調査で、肯定的な回答を85%以上	・職員研修や他の教職員の授業を見せたりして資質向上に努める。							学力向上部(副)学力向上コーディネーター
	○ふるさとを愛し自ら学び、ともに生きていくよかつ子の育成のために地域との連携を図る。	○どの学年でも地域との関わりをもつ内容を盛り込んだ授業づくりを行い、地域との関係性を深めながらふるさとを愛し、誇りに思う児童の育成を図る。	・各学年の発達段階に応じて地域の特色ある伝統文化や特産物と触れる学習を進める。							地域連携指導教諭

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ●…県共通 ○…学校独自 ○…志と誇りを高める教育
----------------	---